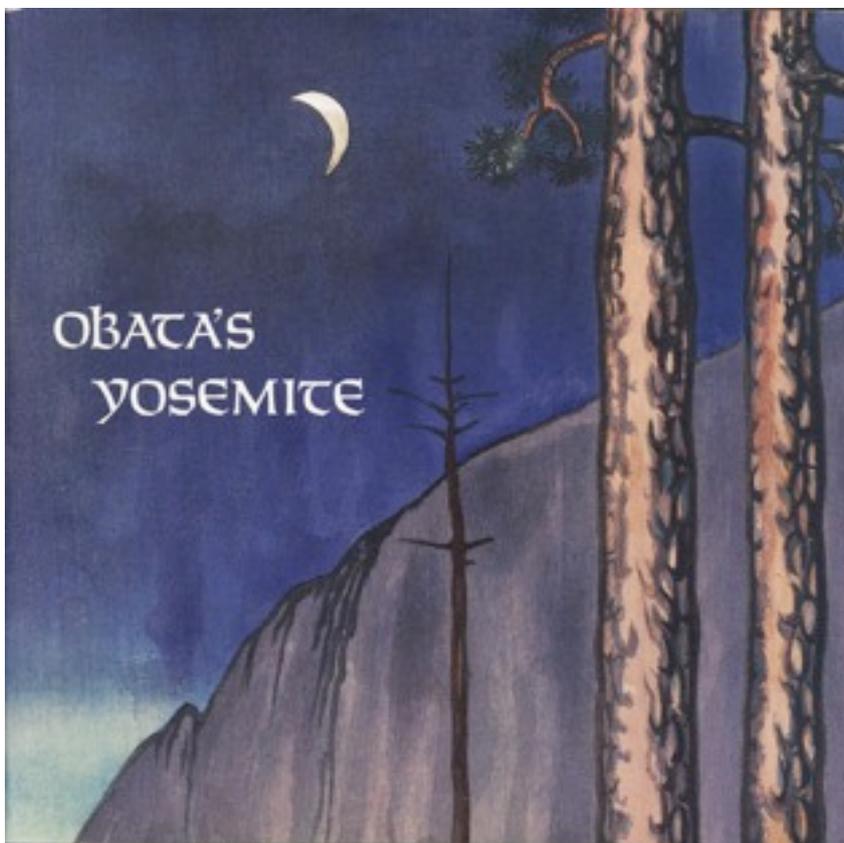


「OBATA'S YOSEMITE」  
(Yosemite Association)



## 講演会：アメリカに生きた日本人画家 小圃千浦



▼小圃千浦（おばた・ちうら/1885-1975 カリフォルニア大学バークレー校名誉教授）は戦前からヨセミテをはじめとするカリフォルニアの風景を日本画で描きつづけた画家である。

千浦は仙台の出身。14歳で家出し東京で郵田丹陵（むらた・たんりょう）の弟子となり、若干17歳で日本美術院正会員になるが、1903年、18歳で単身渡米する。サンフランシスコで舞台美術や邦字紙のイラストなどで生計を立て、1927年ヨセミテへのスケッチ旅行で描いた作品展をきっかけにカリフォルニア大学バークレー校に美術部教授として迎えられる。

1941年日米は開戦。西海岸では日系人11万人が敵性外国人と見なされ強制収容所へ送られた。千浦も家族とともに日系人収容所に送られるが、「いかなる状況下であっても、教育は食糧同様に重要だ。なかでも芸術はもっとも建設的な教育だと信じる。」との信念のもとに美術学校を収容所

内に創立する。ここではのべ600もの人々が学び、多くの日系人アーティストを輩出したのである。

戦後、千浦は大学に復職し、その後の人生は日本の自然と文化をアメリカに紹介することに捧げ、また毎年ヨセミテでのキャンプとスケッチを欠かさなかった。カリフォルニアの大いなる自然は千浦のアーティストとしての感性をさらに磨き、また生きる希望を与えたのである。

▼Kimi Kodani Hill（キミ・コダニ・ヒル）千浦の孫、バークレー在住。ヨセミテを描いた画集"Obata's Yosemite"の発刊に尽力し、そして戦時下の収容所生活時代を伝える "Topaz Moon" を自ら著して、千浦の辿った足跡を伝えつづけている。またヨセミテ国立公園をサポートするNPOである Yosemite Associationの理事をつとめている。

2007年7月1日（日）（13時開場・13時30分開演／予約不要・参加無料）

同志社大学京町家キャンパス「江湖館」（地図参照・地下鉄丸太町下車徒歩3分）

スライド上映と講演：Kimi Kodani Hill (Granddaughter of Chiura Obata)

\*講演は英語で行われ、日本語通訳がつきます。

進行・解説：西村仁志（同志社大学大学院総合政策科学研究科准教授）

講演会終了後、交流の集いを行います。（要予約：会費1,000円 お茶・お菓子つき）



問い合わせ：同志社大学西村研究室／TEL&FAX:075-251-4906 E-mail:whitewolf@mail.doshisha.ac.jp